令和５年度第１回みんなで支える森林づくり上田地域会議

開 催 日 時　令和５年 10 月 26 日(木)13:00～16:40

開 催 場 所　現地視察…長和町窪城　宮城団地

会　　議…上小森林センター第一研修室

出席構成員　赤堀楠雄構成員、酒井真由子構成員、茅野俊幸構成員、土川哲史構成員、都築弘子構成員、金井のぞみ構成員、藤川まゆみ構成員

事　務　局　竹内千鶴子林務課長、丸山真一郎企画幹兼林務係長、山中徹也課長補佐兼普及林産係長、斎藤方彦森林保護専門員、小池一成主任、古川俊樹技師

現 地 調 査

(1)　森林税を活用した主伐・再造林施工箇所(長和町窪城　宮城団地)

施工者…信州上小森林組合

説明者…信州上小森林組合依田窪支所　田中憲一郎支所長代理

会　　議

(1)課長あいさつ

(2)構成員自己紹介

(3)事務局自己紹介

(4)座長指名

(5)議事

【座長】

ご指名いただきましたので、座長ということで、よろしくお願いします。進行役ですので、スムーズな議事の進行にご協力いただければと思います。

事務局からは、この会は、意見の集約ではなく、構成員の皆様の忌憚のないご意見を幅広くいただく場と聞いております。 活発なご意見等を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って、事務局から説明の方、お願いしたいと思います。

【事務局】

(1)長野県森林づくり県民税について説明

【座長】

ただいま、事務局からご説明いただきました。ここで皆様から、ご意見等いかがでしょうか。

【構成員】

ご説明ありがとうございました。今回の新しく始まる森林税の目玉になっていて、今日も説明に非常に力を入れていただいた森林の若返りの関係です。 今、国の方でも主伐・再造林、森林の若返りっていうことが強調されていますが、 難しいところもあります。

先ほどご説明でも、80 年周期で、1 年間に 1,250 ヘクタールぐらい切っていくと資源が循環するような想定でのお話だったんですけど、無理があると思われます。80 年を超えて育っていく木が必ずあります。今森林の若返りの話が多くなっていて、80 年超えて 100 年、120 年、あるいは 150 年と高齢級になった森林をどうケアして、健全な状態に持ってくるかという議論が皆無に近いと思ってます。

森林資源を循環させているなかで、若い木がなくなっていって、80 年を超えて樹齢が高くなると色々問題が生じると言われてますが、その問題解決について、高齢林分に対するアプローチもあれば、全体にバランスよくいい形になっていくんではないか思っています。その観点から、この若返りだけではなく、高齢林も育てていくっていうことに関しても、知見を高めていくべきではないかと考えます。

もう 1 つは人材育成のことです。国の方でも、林業の新規就労の人たちに対して、かなり手厚い施策が講じられています。ところで同じ 1 次産業でも、林業の場合は、農業とか漁業と違って、1 次産品である木材を直接消費者に届けることはできません。生活者の元に材木が届くためには、途中で必ず加工のプロセスを経ることになります。

今の国の政策もそうですけれども、川上から川中、川下のなかでも、川中の木を加工していくセクターに対する支援があまりない。今、長野県では今カラマツの生産が非常に活発になってますが、丸太が県外に流出しているケースが非常に増えていて、これはかつて熱帯雨林の丸太産地だった東南アジアなどでは丸太だけを日本に輸出していて、 その国内での加工はほとんど行われていなかったことに似たような状況になっている。

これから県内でもその加工の受け皿を育てて、長野県内で生産された木材が県内で加工されて、より県内で付加価値を高めて利用されていくっていうことが望ましいと思っています。

そのためには、林業の人材育成だけではなくて、製材加工の人材育成の支援っていうのも必要だと思います。

そこでぜひ新しい県民税を活用しながら、山の木を加工された形で、生活者の元に届けるプロセスとして非常に重要な、川中の加工セクターに関する支援っていうのもぜひ考えていただきたいと、この 2 つをまず申し上げたいと思います。

【座長】

ただいまは専門的な知見からご意見いただきました。

カラマツは上小地域で主林木ですが、80 年生にとらわれることはないんじゃないか、また人材育成については、製材の部分までもというお話かと思います。

【構成員】

伐期が来ているから全てを伐っていくのではなく、所有者の事情も考慮しますし、また地形的に伐れないところもありますから、数字のようにはいかないというのは現状です。そうなるとやはり林齢が高い林分もどうするか、当然これから考えていかないといけないと思われます。

また、我々が林業経営を進めていている中で、山で生産する材木が売れなければ、結局、山から木が出せないという状況があります。 今、地域の製材所は、どんどん減っていますし、後継者もいないというのが現状です。

森林組合から出す材木は、地域の 1 番近い製材所に納めたいし、そうすると当然コストも安くなりますが、実際のところはそうじゃなくって、遠くへ運ぶという現状になっています、

この部分についてはこれまで目を向けられなかったと思いますので、地域会議から意見として出していただければと思います。

後継者問題についてですが、これは林業だけの問題ではなく、後継者不足はどの業種もそうだと思うのですが、特に林業では深刻であるという現状です。

先ほどの現地視察でも、「価格の良いときに木は伐れないんですか」という話もありましたが、実際、短期的には保育事業等も考慮しながら事業の調整もできます。長期的に見て、「今伐りたいから伐りましょう」と言っても、なかなか難しい。今、当組合の技能職員は 50 人ほどいますが、そのメンバーしかいませんので、それ以上の仕事はできません。それでは来年さあ、増やしましょうって言っても、急に人が増えるわけではありません。

当組合としても、また他の林業事業体さんもそうですが、雇用に関してはいろんな努力をされていると思います。広報とかホームページ、職場体験など、いろんな対応していますが、難しい現状です。このような会議で皆さんからご意見をいただき、新しい求人の方法を考えていきたいと思います。

【構成員】

今日初めて現場を拝見させていただいて、今までと違う視点で山が見えたような気がしました。これまで日本の林業はあまり持続可能でないのではないかと感じることがあって、地主さんは、そんなに伐りたくないとか、お任せきりとか。だからこう細やかな林業は今あまりできないんだ、特に人もいないし、と思っていました。このまま 80 年間、それを今のやり方で、1,250 ヘクタールを回していくっていうことが可能なのか、実現可能なのかと思いました。

日本の林業のやり方が、日本オリジナルなのかどうか、またはアジアではどうしているのか、ヨーロッパではどうしているのか、研究の上で、今の日本の林業の現状、人材不足をどうするのかという研究を始めないといけないのかな思いました。

人材育成は必要であり、林業は本来なら人が必要な業種と思いますが、カラマツが強いこの地域で、林業のスキームを立案し、資源として生かせるのか、残置すべきなのか判断できるような人材、ヨーロッパではフォレスターと言って、森林全体の計画を立てるような職種があると聞いています。

そういう人材育成も必要ではないでしょうか。行政の皆さん、専門家の皆さんと連携し、新しい発想で林業を考えていけるようなフォレスターの育成を提案したいなと思います。奈良県にフォレスターアカデミーができたそうなんです。森林税は国がまとめてやるのではなく、この地域だけで選んで使えるとしたら、この植生の上小地域でどのような林業をやっていくか、考えるキーマンになるようなフォレスターの育成を提案します。

【座長】

今のご提案に対し、事務局からは何かありますか。

【事務局】
　確かに森林づくりのプランを立てるキーマンになる人は必要と考えます。森林組合や事業体の優秀な職員の方が、そのフォレスターの役割を担い、県のプランや施策に意見を述べてくれればいいなと思います。
　奈良県のフォレストアカデミーですが、入学者に一般とは別の５人分の県職員採用枠があり、２年間アカデミーで勉強して市町村にフォレスターとして採用されていく仕組みと聞いております。
【事務局】
　上田地域の取り組みでご紹介させていただきたい事項があります。
　令和３年度から上田地域の独自の取り組みとして、地域の企業の方と国際認証をとっている SGEC 認証林の所有者団体の間で協定を結んでいます。
　今日お見えの日置電機さんも入っていただいていますが、３年間協定を結ばせていただいてお金をいただく中で、この上田地域独自の取り組みとして「にぎやかな森プロジェクト」をやっております。その中で、今ご提案がありました人材育成ということで、市町村と森林組合の職員の方に通常の業務を離れて、２か月に１日、年間で数日程度ですが、テーマを決めて勉強や視察を行い、その研究成果を年度末に発表していく取り組みがこの地域ではございますのでご紹介させていただきます。
【構成員】
　これまで森林税について、名前は聞いたことがあっても、詳しく知らなかったので、今日使途についてよくわかりました。
　一つ質問があるのですが、資料の６ページ、森林税の活用率が低かった事業で、「県民協同による里山整備事業」につきまして、具体的にどういう内容かお聞きしつつ、そのあと自然保育の話をしたいと思います。
【事務局】
　県民共同による里山整備利用事業についてのご質問をいただきました。お手元の３枚綴りの資料をご覧ください。
　開かれた里山計画については先ほど説明いたしましたが、里山整備利用地域については、県下で 105 の地域が認定されてまして、そのうち上田地域管内は、上田市霊泉寺温泉以下合計４つしかないという状況になっております。
　これを支援する事業をとして設けられているのが、県民共同による里山整備事業利事業で大きく分けて２つの事業がございます。
　１つ目が里山整備利用地域活動推進事業ですが、これは、森作りを行うための現地調査、計画作成、森林整備やキノコ栽培などに必要な消耗品の購入、作業の安全講習にかかる経費などです。
補助率 10 分の 10 で、３カ年度を支援いたします。
　実際にはチェーンソーの燃料やオイル、ヘルメット、刈払機の替刃、花木などの苗木、それからキノコの種菌などに使用されていることが多いようです。
　２つ目が里山資源活用推進事業ですが、森林整備や薪などを生産するために必要な機械や資材を導入するための事業で、補助率が４分の３ で、補助対象経費累計が 150 万円まで支援する事業です。

具体的には、チェーンソーや刈払機の購入、薪割機の購入などに使われているケースが多いと思います。

この事業は森林税の第 3 期、5 年前からの事業で、 今年度第 4 期からは、さらに資料の(3)と(4)の項目が加わっております。(3)が地域活動を推進するための事業(開かれた里山)というものでして、 先ほど説明した地域活動推進事業の 3 か年間に加えて、広く県民の皆さんに開かれた里山にする仕組みづくりに追加でプラス 2 か年度支援するものです。

(4)の資源利活用推進事業(開かれた里山)については、(2)の 150 万円までを限度額としていた事業に加えて、100 万円を追加で支援する事業です。

【構成員】

どうもありがとうございます。詳しく教えていただきました。

これまで木や森について、興味がないとかではないんですけれども、そんなに親しんでこなかったと思います。ただ、私も上田に来て、里山が多いっていうところだなと思いまして、本学にも裏山があって、子供たちが活用しているところです。あるとき、森林の専門家の方がたまたま来た時に、「山が疲れてるね」って表現されて、あー、そういう表現あるんだ、と感心しました。今、本学の附属幼稚園の先生や園児、卒園児、学生とかで、その山の整備を始めていて、私たちはそれを「森作り」って呼んでいます。

そういう中で、月に 1 回毎回来る子は、そこにゴミが落ちていると 「自然が傷ついちゃう」っていう表現をしてたんです。我々が森や木に親しんでいくって本当に大事だなって、最近ようやく気づきました。

長野県というかこの上田地域の特色を生かすとなると、親しみのある里山だとか木々が多いところで市民が一緒に森作りしていくという機会があるといいのかなと思っていたので、この里山整備の取組はすごくいいのではないかと思いました。ただ、その活動に集まってくれ、という呼びかけ方法はたいへん難しいですよね。、これは理想論ですが、町の中にもっと緑があって、もっと木があって、草があってというようになればいいなと。今、実際には逆に行ってる気がして、アスファルトになってしまっていると思います。もっと身近に、普通に町の中を歩いて森や木があればいいなと思っています。

【座長】

それでは、次に開かれた里山の整備計画について、2 つの協議会から計画書が出てきておりますので、その内容について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料に基づき上田市飯沼整備利用地域と青木村町西地区の整備利用地域の計画を説明。

【座長】

「開かれた里山整備事業」の 2 地区につきましてご説明いただきました。これにつきまして、ご意見ありましたら、お願いします。

【構成員】

ご説明ありがとうございました。里山整備利用計画については、たいへん細やかに計画されていることがわかりました。

質問なんですが、上田市飯沼整備利用地域の(5)、開かれた里山における県民等の利活用計画人数につきまして令和 6 年から 100 名、150 名と結構多くの人数が計画されているんですが、何かイベント等ある予定なんでしょうか。

【事務局】

上田市の飯沼整備利用地域の事業計画に関してのご質問いただきました。この地域は里山の公園整備が進んでおりまして、現在近隣の保育園の園児の利用(週 2～3 回くらい)、さらに地元の方のウォーキングするコースにもなっていて毎日必ず利用する方もいて、このような人数の見積りになっています。

【構成員】

はい、ありがとうございます。2 つの地区について、計画されていることが、きちんと実行されていかれればいいなと思います。

これはお願いですがぜひ持続可能な活動にしていただきたい、有志の方とか研究グループの皆さんが実行委員会を組織しているようですが、興味のある方やる気のある方がいらっしゃる時は活動が継続していい循環ができますが、一旦活動が途切れると、続かなかったりするので、興味のある人を巻き込んでいき、活動が持続可能で継続していくことが大切かと思います。

【構成員】

いずれも良い計画だと思いました。この地区は、大きな太陽光発電の計画があって、防災の観点からも地域で反対されていました。こういった形で地域の里山を自分たちで作っていくという活動は本当に素晴らしいなと思います。山を手放したい人はたくさんいて、太陽光発電の業者に売るという悪循環が起きているが、こういった形で里山を自分たちの力で保全していく、楽しんでいくっていう文化を作ったら、山林を売れないと思います。地域みんなで里山整備に関わって、山を作っていって、素晴らしいなと思いました。青木村の計画も、これ移住者の方々が中心にということですが、 移住した甲斐があるというような実感のある計画になっていると思います。

今の話にもありましたが、持続可能性、つまりどうやって活動を続けていくかが最大の課題かもしれません。そういった点でも県の皆さんも活動をフォローしていかれるんだと思いますが、 課題があれば早めに手当てしていくようなお手伝いがあればいいと思います。

【座長】

他にご意見はございますでしょうか。

【構成員】

最初の説明で、里山整備事業の利用実績が上がっていないと説明がありましたが、この県の資料がわかりづらいという面もあろうかと思います。生活者目線で言えば、まず「薪を何とかしたいね」とか「チェーンソーで森の手入れをしたいね」とか何人かで集まって考えるとします。そう言うときは様々な助成金を使いながら自分たちのやりたいことをやっていく。

この資料は行政からの目線の資料であり、使用者の視点ではないですよね。こういう事業を使ってもらうためには、まず「どのようなことができるのか」という視点が必要です。利用者の目線って言ったら、これ逆引きになってなきゃいけないんですよね。例えば、林野庁のホームページには、逆引き視点的なものもあるんですね。こんなことやりたいという希望に対してはどのような事業が使えるかすぐわ

かる逆引の形になっているわけです。せっかく森林税を活用して出来た事業を、幅広く使って地域や森林にとってプラスになるっていうことであれば、普及をしっかり考えるべきだと思います。

利用する人たちが「どんなことがやれるのか」っていうことがすぐわかるのが大事であって、いろんな人たちに分かるような普及を図っていかないと、この資料ではハードルばっかりが目立ってしまって先に進まないように思いました。

【事務局】

どれだけ普及を図っていったらよいかということは常に考えていきたいと思っています。資料の 12 ページにありますが、情報発信をしていく中で、各地の事例も集めて発信していきます。

【構成員】

事例集というのは、生活者が自分たちの身近に感じられる形で発信していただかないと、なかなか伝わらないことがありますね。

【座長】

他にご意見等ございますでしょうか。

整備地区の計画につきまして、この地域会議といたしまして、承認ということでよろしいでしょうか。令和 5 年度新たに、この 2 地区については、実施していくことでよろしいんですよね。

【事務局】

要綱では承認ということなっているんですが、実際にはこの会議で皆様から計画に対してご意見をいただいて、最終的には地域振興局長が決定という形になります。

【座長】

承知しました。他にご意見等ございますでしょうか。

【構成員】

森林税の利用について、たくさんアイデア用意してまいりました。

やはり利用しないといけないということで、せっかくのこのチャンスに、もっと脱炭素、ゼロカーボンに森林税が使えるといいなと思います。断熱材とか、断熱のドアとか、そういったものを県産材で開発することに予算を使ってはどうでしょうか。

秋田では、フォレストボードっていう C 材、D 材で断熱材を作るということが進んできているようなので、それを提案させていただきます。これらの断熱材は廃棄する時には、バイオマス燃料にはなりますので。

これは私も活動していますが、最近は県立高校が多いですが、これからは小中学校にも広げようという「教室断熱ワークショップ」というものがあります。断熱材を設置した後にこういった木材のはめ板を森林税で提供していただけるとすごく輪が広がると思います。費用が結構かかるんですね。木枠のところも県産材だとすごくいいではないですか。

この取り組みは生徒だけじゃなくて、先生とか教育委員会、行政、地域の工務店など様々なネットワークが関わっています。その結果として脱炭素の機運も高まるし、断熱の効果を実感する方も増えてきます。

先ほど、加工セクターが弱いという話がありましたが、「やまとわ」という会社ではいろいろな製品を作っていて、パイオニアプランツという、自分だけの折りたためる家具やアカマツで恐竜とか、様々な製品があります。これはやはりプロのセンスのいいデザイナーがいるのも理由の一人と思います。

今までプラスチックとか金属とかコンクリートでできていたものを木に変えるアイデアコンテストはどうでしょうか。またはそういったものを考えるワークショップでもいいかなと思います。県民誰でも、思わぬアイデアが出てくるようなことをやってはどうかなと思いました。

県では森林の魅力発信の力がちょっと弱いというイメージがありますが、どうやって森林の魅力、そしてそこで働くことの魅力を発信するかということについて、 もう少し専門家、プロのデザイナーさんを入れて発信したらどうかと思います。印刷物は結構あるんですけれども、動画を作ったり、SNS での発信についてはもっと県民がわかりやすいものがいいかなと思います。

SuuHaa(スーハー)という、長野県の移住促進サイトを作っている方、すごいセンスがいいなと思うので、 お金かけようと思えばできるんじゃないでしょうか。あと、「信州まちなかグリーンインフラ推進計画プロモーション動画」っていうフリーインフラの動画もつくっていて、さだまさしさんが歌っていて、とても良くできていて、街中に緑があるとどれだけいいかっていうことがよく伝わってきます。このように効果な PR 効果のあるものを作ったらどうかなと思いました。

それから、今日、マツタケの話が出ましたけれども、 木を出してくるのももちろん大事なんですが、アカマツを整備することでマツタケが復活するように力を入れたらどうでしょうか。山に入る人がいなくなって、山の整備が進んでないと聞いています。マツタケ山の整備でお金を生み出す山にしたらどうかなと思いました。

最後に根本的な課題を解決しないといけないのかと思います。いろんなやり方を学んで解決しないといけないと思うことの 1 つに、境界の問題があるなと今日も現場でお伺いしました。

予算があれば進むのであれば予算をかけることも必要では。長和町では国土調査が終わっていると聞きました。エリアを決め、一定の期間にこれだけお金をかけたら、これだけ境界線がはっきりしたっていうような事例を作り、全国から注目されるモデルになるといいなと思いました。

【座長】

はい、ありがとうございました。

【構成員】

今のご提案、全部できるんじゃないですか。つまり、県の方が事業メニューを決めて、事業実施主体でやるように受け止められてますが、例えばその断熱について、「これやりたいんだけど」と申し込むと、 それならこういう風に計画すればできますよっていうことを事務局の方で考えてもらう。事業メニューは県で大まかには作ってありますけれども、提案を受けて再度事業として計画し、こういうお金があるのでみんなで使ってきましょうよ。だったら、今、先ほど提案の多分ほとんどが、適切な計画して、実施していけばできるのではないかと思います。

先ほどの断熱改修、窓枠ですか、非常にいいことだと思うんですけど、そこに費用がかかる。だから森林税の事業で、こうすれば使えますよっていう、そういう理解のされ方が広まっていかないといけないのではないでしょうか。こうやっていろいろと考えてらっしゃる方がいるっていうこと、県民税の二ー

ズがこんなにあるっていうこと理解していただく必要があると思います。
【事務局】
　私たち県としては、県民の皆さんが何か事業をやりたい時に、じゃあ何を使ったらいいのかっていう、使える情報発信を進めていくことが大事だということですね。
【構成員】
　今日の資料では、我々がどのように使えるかという部分が少し見えなかったような気がします。
【座長】
　皆様、ありがとうございました。ただいまのいただきました意見については事務局で取りまとめて、県民会議の方へ報告していただくことらなります。若干時間が超過してしまいましたが、以上を持ちまして終了させていただきます。
【事務局】
　どうもありがとうございました。次回は、来年 2 月下旬に、令和 5 年度の事業実績及び令和 6 年度の事業計画についてご意見を頂きたいと思います。また市町村で森林税を担当している職員の方もお呼びし、市町村の方針等に対してもご意見を賜りたいと思います。
　本日は長時間にわたりましてご意見を頂き、どうもありがとうございました。